

令和7年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

団体名 千葉県 松戸市役所 下水道事業 広報部会	団体区分（混成の場合は複数☑） <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 学校・NPO・個人等
取組名 まつど下水道フェスタ開催	
責任者（実際に広報に取り組んだチームの代表者） 氏 名：横田 浩一 所 属：下水道経営課 電 話：047-710-3082 E-mail：mcgesuidoukeiei@city.matsudo.chiba.jp	
担当チームの構成 （外部人材を活用している場合や外部委託をしている場合等は、その旨記載して下さい） 下水道経営課・整備課・維持課の広報部会部員 各課2名＋広報部会会長	
取組のポイント （一言でいうとどういう取組かを、箇条書き等で記載して下さい） 1. 市民会館大部屋をイベント会場とした、下水道PR活動 2. 子供から大人まで楽しめるイベント 3. デザインカラーマンホールの展示やマンホール顔はめパネルによるフォトコーナー 4. トイレットペーパーとティッシュペーパーが下水道でどうなるのか、つまらん管実験 5. 管きょ調査用TVカメラと更生管の展示による、維持管理状況の説明 6. マンホールトイレの展示	
アピールポイント 1. デザインマンホールに自由に塗り絵してオリジナル缶バッジ・缶バッジキーホルダーの作成 2. カプセルトイから出てくる「うんちくん」にデコレーションしてオリジナルうんちくんを作る 3. 下水道に関するクイズやスタンプラリーで景品（PRグッズ）進呈 4. カプセルトイマシーン等は職員手作りのため、コストを抑えられている	
要したコスト 総額 約28万3千円 【内訳】 缶バッジ：約41,000円 うんちくん・トイカプセル等：約14,000円 配布PRグッズ：約183,000円 その他・・・約45,000円	

ウラ面に続きます

取組の概要（適宜、写真や図等を挿入して下さい。複数年度にわたる取組の場合は、その旨記載して下さい）

公募によるデザインマンホール作成

松戸市では令和3年にオーストラリアのホワイトホース市との姉妹都市50周年を記念して、公募によるデザインマンホールコンクールを実施しました。選ばれた作品は「すくすくファミリーフレンズ」で、オーストラリアのコアラとユーカリ、ミモザと松戸市の鳥であるフクロウが仲良く寄り添うデザインです。これを基にカラーデザインマンホールを作成・設置し、マンホールカードにもなりました。

下水道PRの再開

昭和35年から供用を開始した単独処理区から始まった松戸市の下水道は、流域下水道の延伸により普及率が徐々に上昇し、今では90%に達しています。昭和60年代から平成初期のころには、「下水道の日」に駅前広場などで普及PR活動をしてきましたが、平成10年頃から開催していませんでした。下水道があるのが当たり前の現在の市民生活で、老朽化した下水道管の維持管理や、下水道整備や未接続家屋への普及もPRが必要と考え、デザインマンホールの制作とともにPR活動の再開を決めました。



成果（数字を交えるなど、できるだけ具体的に記載して下さい）

参加者数 令和7年 575人 令和6年 490人 令和5年 654人（2日間の合計）

フェスタに来場者はお子様からお年寄りまで幅広く、お子様がつまらん管実験や缶バッジ・缶バッジキーホルダー作り、管きょ調査用TVカメラに映る自分の姿を見て楽しんでいる間に、親御さんに下水道の維持管理状況を説明できた。

お子様が缶バッジ作り（塗り絵）や、うんちくんトイを作成している時間は約30分程度で、その間に親御さんには、千葉県下水道からお借りした下水道ビデオ上映やパネル展示などで下水道についての理解を深めてもらいました。

今年は簡易調査用TVカメラとモニタの展示のほか、自走式TVカメラ本体、内面更生したΦ250のヒューム管も市内業者様からお借りでき展示できました。簡易TVカメラを動かしながら管きょ調査や不具合箇所の更生方法などを親御さんに説明できました。今年は1月に発生した埼玉県八潮市の下水道に起因する陥没事故の印象が残っている方が多く、松戸市の下水道は大丈夫なのかと大変興味を持たれていることを実感しました。